

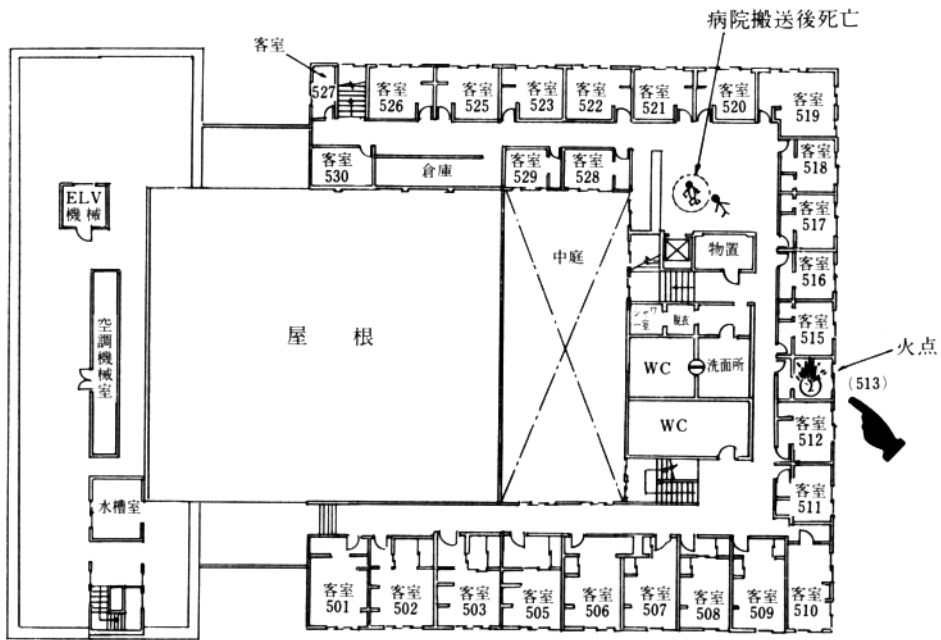
名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構 造 ・ 階 層 面 積	焼 損 程 度 (焼 損 面 積 延 面 積)	死 傷 者
日本青年館 東京都新宿区 霞岳町11番地	複 合 (16)イ	昭和44年1月9日	耐火一部 簡易耐火5/8 建	全・半・部・小 440m ²	死者 2名
		出火4時24分ころ 覚知4時29分 覚知別 報知電話 鎮火6時39分	2,395m ² 延 11,624m ²	(3.7%)	傷者 9名 (2)

I 火災概要							
① 概 要	早朝、5階宿泊室から出火し、死者2名、傷者9名を出した火災である。出火した5階は昭和14年に屋上に増築したもので、防火施設も完備されていなかったうえ、多数の宿泊客がいたこと、防火管理体制が不備であったことから死傷者を出す結果となった火災である。						
② 階 別 状 況	階	床面積 m ²	焼損床面積 m ²	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等 消防用設備等
	PH	18					屋内階段 2箇所 避難階段 2箇所
	⑤	918	440	宿 泊 所	12	2	③ 内 B1~4F 各1箇所
	4	1,953		客室・集会場	6		③ 自 非 誘
	3	2,603		客室・集会場	12		
	2	2,377		客室・会議室	41		
	1	2,417		事務所・宴会場 結婚式場	1		
	B1	1,338		電気機械室 浴 場	18		
	合計	11,624	440		90	2	
	③ 出 火 場 所	(階、室、部位、可燃物状況、居室・非居室、在・不在) 客室513号室から出火 ○区画内装とも木造であった。 ○一人で宿泊中の男性客(43才)が深酒して就寝中であった。				④ 出 火 原 因	たばこの吸がらによるものと推定されている。

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">(出火部位) 513号室</div> <div style="text-align: center;">(出火室の拡大) 内装, 収容可燃物</div> <div style="text-align: center;">(他室への拡大) 木造の区画</div> </div>	
	<p>5階は27室の宿泊客があったが、区画内装とも木造であったため延焼拡大が急速で、特に火元と目される513, 515号室においては、フラッシュ・オーバー現象がきわめて早い時期に発生したと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 延焼拡大した主な理由 区画内装が木造であった。 ○ 煙の伝播経路 出火室から廊下伝いに伝播し、中央東側直通階段は、入口が火元に近接していたため、初期において、火煙のため避難が不能状態となった。 	
II 火災建物概要		
① 建 築	着工・竣工又は主たる改築等 昭和38年集会場部分, 3・4F PH増築 (新築)大正14年 月 日 (5階部分増築) 昭和14年 月 日	
管 理 状 況	② 縦 穴 の 状 況	③ 防 火 管 理 状 況
	階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/> エレベーター <input checked="" type="checkbox"/> パイプシャフト <input type="checkbox"/> エスカレーター <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 特記なし	<ul style="list-style-type: none"> ○防火管理者は選任され消防計画も定められ届出されていた。 ○自衛消防組織は防火管理者のもとに従業員13名で構成されほかに食堂従業員10名が補充強化されている。 ○自衛消防は夜間を重点に樹立してあり消防訓練も毎年2回実施されていた。
管 理 状 況	④ 防 火 区 画 等	⑤ 消 防 用 設 備 等
	建物は北側を集会場、南側を宿泊所として使用しており各階で耐火構造で用途区画され、連絡通路には、甲種防火戸が設置されていた。	<ul style="list-style-type: none"> ○消火器は毎年訓練とあわせて薬液を交換していた。 ○屋内消火栓は、訓練とあわせて年2回従業員をして放水訓練を実施していた。 ○自動火災報知設備は毎月1回保守を業務に依頼していた。

III 火災後の行動						
① 発 見 状 況	<p>○発見者 (宿直のフロント係) ○発見の動機 (ベルの鳴動) ○発見後の行動 (確認に行く)</p> <hr/> <p>当日の宿直責任者、フロント係Aが1階フロントで仮眠していると自動火災報知設備ベルが鳴動し、受信機をみると5階西側客室火災を表示していた。この階は以前から非火災報が時々あるので今度もそうだと思う中庭ごしに見上げたが何の気配も無いので確認しようと思いつつ階段を上がっていく途中、5階に泊まっていた電話交換手が「5階が火事です」と叫びながら降りてくるのに会ったので、確認しようと思いつつ南側から南東にまわって5階を見上げると南東かどの窓から白煙が上がっていた。</p>					
② 通 報 状 況	<p>通 報 した <input type="checkbox"/> (発見者であるフロント係) 出火後約(5)分 しない <input checked="" type="checkbox"/></p> <hr/> <p>自動火災報知設備のベルが鳴動し、確認に行く途中、電話交換手から5階が火事であると知らされ、自分で外に出て5階の南東かどの窓から白煙が出ているのを見て、1階事務室へもどり通報した。</p>					
③ 初 期 消 火 状 況	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">消 火 し た</td> <td style="width: 35%;"> 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> </td> <td rowspan="2" style="width: 50%; vertical-align: top;"> (理由又は状況) 電気主任O(70才)は、地下1階で就寝中、自動火災報知設備のベル音で飛び起き、1階ロビーに行くと、火災が5階だという声を聞いたので、消火、避難誘導をすべくエレベーターで5階に行き、エレベーターが降りたとたん火災が吹きつけてきたので、近くの消火器により消火を図ったが効果がなく消火を断念し付近で迷っている会社員の避難誘導にあたった。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">消 火 し な い</td> <td> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> </td> </tr> </table>	消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 電気主任O(70才)は、地下1階で就寝中、自動火災報知設備のベル音で飛び起き、1階ロビーに行くと、火災が5階だという声を聞いたので、消火、避難誘導をすべくエレベーターで5階に行き、エレベーターが降りたとたん火災が吹きつけてきたので、近くの消火器により消火を図ったが効果がなく消火を断念し付近で迷っている会社員の避難誘導にあたった。	消 火 し な い	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 電気主任O(70才)は、地下1階で就寝中、自動火災報知設備のベル音で飛び起き、1階ロビーに行くと、火災が5階だという声を聞いたので、消火、避難誘導をすべくエレベーターで5階に行き、エレベーターが降りたとたん火災が吹きつけてきたので、近くの消火器により消火を図ったが効果がなく消火を断念し付近で迷っている会社員の避難誘導にあたった。				
消 火 し な い	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>					
④ 消 火 活 動 概 要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先着隊到着時、関係者からの情報が、きわめてあいまいで状況把握が困難であった。 2. 検索進入をこころみだが、階段出入口付近は炎につつまれ援護注水なしでは進入不可能の状態であった。 3. 東側中央避難階段から進入を図ったが、出入口ドア施錠のため使用できず、二連梯子利用で二階窓から進入せざるをえなかった。 					

	避難方法	避難上支障事項									
⑤ 避難 状況	<ul style="list-style-type: none"> ○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (14 人) ○エレベーター, エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓, 開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> (人) ○救助 <input checked="" type="checkbox"/> (2 人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> 									
⑥ 死者 の 状況	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">健康人 2名</td> <td rowspan="6" style="vertical-align: top;">避難上支障となった事項</td> </tr> <tr> <td>(泥酔者 1名)</td> </tr> <tr> <td>要保護者 名</td> </tr> <tr> <td>乳幼児 名</td> </tr> <tr> <td>高齢者 名</td> </tr> <tr> <td>身体不自由者 名</td> </tr> <tr> <td>病人 名</td> <td></td> </tr> </table>	健康人 2名	避難上支障となった事項	(泥酔者 1名)	要保護者 名	乳幼児 名	高齢者 名	身体不自由者 名	病人 名		<ul style="list-style-type: none"> ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input checked="" type="checkbox"/> ((管理不良), 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
健康人 2名	避難上支障となった事項										
(泥酔者 1名)											
要保護者 名											
乳幼児 名											
高齢者 名											
身体不自由者 名											
病人 名											
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 517号室の電話交換手はベル音で気付き, フロントに知らせるとともに, 階段を下りながら4・3・2階の客室ドアをたたき火事を知らせる。 ○ 5階宿泊客のうち8名は, 自力で階段から避難, 2名は避難中廊下で倒れ消防救助隊により救出される。 ○ 5階宿泊中の従業員(電話交換手)は, 火事だと連呼しながら階段から避難した。 ○ 4階宿泊客のうち5名は自力で階段から避難, 1名はベル音で気付いた後確認に1階へ降り再びもどり他の客を誘導後非常階段から避難(全身火症で13日後死亡) 										
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 518号室の宿泊客F(38才)は深酒して就寝, 自室のベッド下で人事不省におちいっているところを救助隊により救出され病院に搬送後死亡。 ○ 519号室の宿泊客I(19才)は同室の者に起こされ, 一緒に廊下から避難したが東階段へ行く途中で迷いエレベーターホールで倒れ死亡, 救助隊により発見される。 										
IV 問題点・教訓等											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 火災の発生は自動火災報知設備の作動によって比較的早く感知しながら, 従業員が非火災報でないかと懸念したり, 自衛消防隊の陣容はあるていどととのっていたにもかかわらずその後における避難誘導初期消火などの行動が有効に行われなかった。 2. 責任ある宿直者がいないため, 夜間の指揮責任態勢がとれなかった。 3. 廊下・階段に物品が置かれていたため, 避難上の障害箇所が多かった。 4. 非常口・出入口は防犯上から閉鎖, 施錠したがる傾向が多く, 一部閉鎖されていたため避難障害・消防隊進入困難等が生じた。 5. 建物関係者からの積極的な情報の提供がなかった。 6. 宿泊客の一部にはベル音の鳴動に敏感に行動せず, 事態切迫に対する認識が甘い等避難に対する関心が低かった。 											



5 階

